

## 蒲生干潟の植物⑬

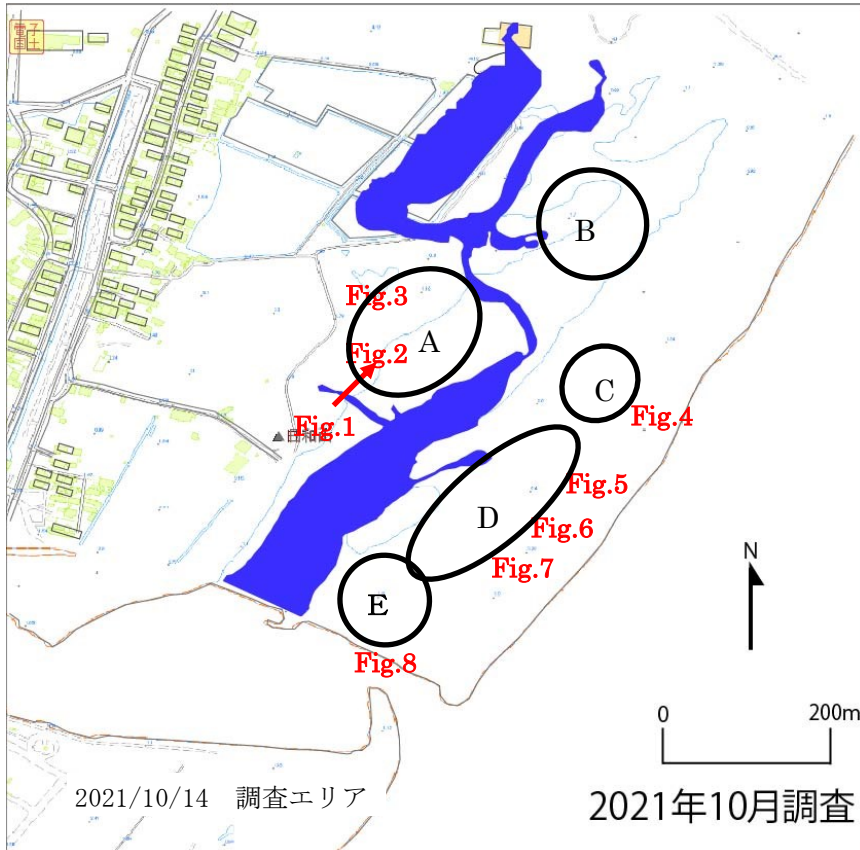


Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアAで撮影



Fig.4 エリアCで撮影



Fig.5 エリアDで撮影



Fig.6 エリアDで撮影



Fig.7 エリアDで撮影



Fig.8 エリアEで撮影

調査日時：2021年10月14日（木）9:30～11:30，天気：快晴

定点観測では、ハママツナの葉は黄色になり、茎は茶色になってきた。また、ハママツナの中にヨシが点在して見られるようになってきた（Fig.1）。また、エリアAの北西側に広がるヨシ原では、ヨシの穂がすっかり茶色になっていた（Fig.2）。ハママツナとヨシの境界線では、背丈の低いヨシが見られヨシ原の面積が広がってきた（Fig.3）。エリアC～Dにかけて、ケカモノハシの群落とハマニンニクが広範囲に見られるようになった（Fig.4,6）。エリアDには、流木が広範囲に流れついているエリアがあり、その周辺にハマエンドウとハマヒルガオが広がっている。2度咲きするか調査を続けてきたが、葉は徐々に範囲を広げているが、花は咲いていなかった。どちらも多年草のため、越冬の準備とも考えられる（Fig.5）。エリアDの南側にあったマツから15mほど北側にもう1本マツがあることがわかった。周辺にハマヒルガオが密集しており、これまで存在に気付かなかった。背丈は40cmほどである。エリアEにあるオカヒジキの群落の近くに、チガヤが数株見られた。穂が鳥の毛のようになっており、風にゆらめいていた（Fig.8）。周辺のオカヒジキもすっかり細くなり、茶色になってきた。

（宮崎佳彦）